

平成30年度東京都立清瀬高等学校 経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

①学習活動

- ア 教科会を活用し、生徒の進路希望に合わせた3年間の教科指導計画を策定し、授業担当で、綿密な共通理解を図り、内容・指導レベル等について質・量とも適切な授業を教科として提供できた。定期考査での共通問題化は一部教科においては課題が残る。
- イ 「学カスタンダード」に対応した年間授業計画を作成し、明確な目標に基づいた指導と評価を行うことで、指導内容・方法の改善が図れた。
- ウ アクティブ・ラーニング推進校として、大学入学共通テストに向け、アクティブ・ラーニング型授業の研究には取り組み始めたが、各教員の積極的な授業への導入は課題である。
- エ 土曜講習の受講者の増員は来年度の課題である。長期休業日の講習も主要5教科の教員が全員体制で、生徒の進路希望別の講習を提供することができた。
- オ 大学生によるチューターは3年目を迎え利用者も増え定着してきたが、自学・自習の習慣を身に付けさせることは今後も課題である。
- カ 習熟度別授業を実施し、指導効果を上げることができた。
- キ OJTとして教科内外を問わず、自校または他校において授業参観を全教員で実施でき、授業方法の改善に努めることができた。
- ク オリンピック・パラリンピック教育を推進できた。来年度も継続して実施する。
- ケ 海外学校間交流推進校として、平成31年度の海外訪問校を決定した。来年度は海外生徒の受け入れも積極的に行う。

②進路指導

- ア 進学指導研究校として、生徒の第一希望校合格を実現するため、進路指導部が主導的立場で、各学年と連携を図りながら、組織的な進路指導を進める土台はできたが、進学実績は伸び悩んだ。
- イ 三年間を見通した進路シラバスを完成させた。来年度より、これに沿って組織的な進路指導を行う。
- ウ 全学年、計画的に模擬試験を実施できたが、後の振り返り学習を徹底できなかった。来年度の課題である。
- エ 講話や国公立大学説明会、大学のオープンキャンパス、訪問授業等を活用し生徒の進路に対する意識を高めた。

③生活指導

- ア 社会人としての礼儀やマナーを指導しているが、今後も国際的にも通用する社会性を高めることは課題である。
- イ 遅刻、頭髪、制服指導は、生活指導部が中心となり継続的に取り組んだが、遅刻者数が大きく増加した。
- ウ 学習と部活動等との両立ができる文武両道のけじめのある生活習慣の確立に努めたが、来年度以降も継続的に取り組む課題である。
- エ 生徒一人一人に、あらゆる教育活動を通じて生徒の主体性を育む教育に努めてきたが、目標達成にはほど遠く、本校における最大の継続課題である。
- オ 儀式的行事において、校歌指導を行い、学校への帰属意識や生徒・教職員間の連帯意識を高めることができた。
- カ 道徳の指導を充実させ、奉仕や思いやりの心と公共心を育成し、健康で安全な生活に必要な能力と態度を育てることができた。
- キ 生徒が自己の安全を確保できるよう指導し、合わせて地域社会への共助、貢献する心を育てることができた。

④特別活動・部活動

- ア 生徒会を中心に特別支援学校との交流等を行い、障害のある児童・生徒との交流を通じ、多様性の尊重、障害者理解といった心のバリアフリーを育てることができた。
- イ 生徒全員による読書感想文コンクールや書評合戦を実施し、読書活動を推進したが、貸出数は大きく減った。
- ウ スポーツ特別強化校として、ソフトテニス部、少林寺拳法部の一層の強化と、他の部活動の活性化が図れた。

エ 文化・スポーツ等特別推薦の実施により、部活動の活性化が図れた。

⑤健康・安全

- ア 学校保健計画に基づき、保健委員会が中心となって生徒の健康の保持増進を図り、安全確保の徹底ができた。
- イ 教育相談の機能をより充実させ、生徒の心と身体の悩みに対応し、自殺、いじめ等の問題行動を防止し、生徒の精神的自立に向けた取り組みを推進した。
- ウ 薬物乱用防止教室、セーフティ教室、救急救命講習会を活用し、命の大切さについて考えさせることができた。
- エ 都の改修計画を見据えながら、経営企画室が中心となった施設・設備の老朽化対策を行った。

⑥広報活動

- ア ホームページの更新を頻繁に行うことで、本校の教育活動をタイムリーに発信し、中学生やその保護者、本校保護者や地域の方々の理解と信頼を得ることができた。
- イ 全教職員協力の下、学校説明会・学校見学会、校外での出前授業・説明会・塾訪問等で広報活動を行い、倍率をあげることができた。
- ウ 地域社会や中学校と部活動や生徒会活動等で連携し、地域に密着した教育活動を行うことができた。

⑦学校運営

- ア 本校の特色を整理した上で、グランドデザインを構築した。
- イ 各種会議の開催時間厳守や50分以内の効率的な会議運営、朝の打合せをなくす等、業務の効率化を図ることができた。
- ウ 全教職員が同一の方向に向かった教育活動を進めることは継続課題である。
- エ 教科会、教科主任会、主幹教諭会議や拡大分掌会を開催し、組織的・継続的な学校運営を行った。
- オ 経営企画室による学校経営参画を進め、企画室職員と教員が連携した学校運営を推進することができた。
- カ 体罰防止、サービス事故防止及び個人情報の管理については事故0であった。
- キ あじさいウィーク、学校開放、奉仕活動等を通して地域や保護者と連携した開かれた学校づくりが推進できた。

(2) 重点目標への取組と自己評価 (() 内数値はH29実績)

①学習指導—組織的、計画的な教科指導の充実

- ア 1、2年生の自学時間：1日平均120分以上（1年82.6分、2年90.4分） 【今年度】95分
- イ 授業満足度：80%以上（66.6%） 【今年度】67.5%
- ウ 長期休業中の開講講座数80講座以上（76講座） 【今年度】87講座

②進路指導—国公立、私大難関大学等第一志望校への進学実現

- ア 国公立、難関私立大学現役合格者数：15名以上（10名） 【今年度】19名
- イ GMARCH 現役合格者数：80名以上（66名） 【今年度】43名

③生活指導—自律した生活習慣の確立

- ア 生徒の学校生活満足度：85%以上（81.7%） 【今年度】85.6%
- イ 交通事故：0件（0件） 【今年度】0件
- ウ 年間遅刻者数：1200回以下（1420回） 【今年度】1887回

④特別活動・部活動—気力、体力の充実と向上及び学習と部活・行事との両立

- ア 図書貸出数：1800冊（1517冊） 【今年度】1036冊
- イ 部活動参加者数：98%以上（98%） 【今年度】96%
- ウ 部活動都ベスト32以上の成果：13部（12部） 【今年度】10部

⑤広報活動—清瀬高校の教育活動、魅力を広く紹介するための広報活動の充実

- ア ホームページ更新回数年間：200回（156回） 【今年度】316回
- イ 学校説明会参加者数：2800人（2725人） 【今年度】3047人
- ウ 入試倍率：推薦3.00倍以上（2.76倍） 【今年度】2.07倍
一般1.40倍以上（1.32倍） 【今年度】1.34倍

2 次年度以降の課題と対応策

- (1) 「進学指導研究校」として、生徒の第一志望校の進路実現ができるよう組織的な進路指導を強化する。
- (2) 「アクティブ・ラーニング推進校」として、積極的にAL型授業の研究を進め、全教員がAL型授業に取り組む。
- (3) 「海外学校間交流推進校」として、海外研修や外国人生徒の受け入れを積極的に進め異文化交流の機会を増やす。
- (4) 学習と行事や部活動を通じて、自立できる生徒を育てる。